



「見たり、聞いたり、探ったり」No.213

通算 No.365

青 木 行 雄

世界一の四尺玉花火(新潟県 片貝町)

10万人の観客の前で四尺玉がすごい音響で片田舎の片貝、山村の神社裏で地響きと共に炸裂した。

平成29年9月9日ちょっと遅れて午後10時15分、神社裏にもうけられた棧敷2,500席あまり、8人席で約2万人、神社の境内、通路や田圃^{たんぼ}のあぜ道までに10万人、なんと田舎にしてはすごい人数であった。

花火打上げの内訳を見ると、2日間で花火客20万人、15,000発、四尺玉2発、三尺玉が4発、二尺玉が1発、一尺玉はなんと数千発と数えきれない程連続で打上がる。まさしく、花火国王者の祭典であった。

玉数では首都圏にはかなわないかも知れないが、内容を見ると地元もがんばっていることが行って見てよくわかった。

大きな夏まつりなどのイベントは8月中にだいたい終わる所も多いのではと思うが、全国のイベントを歩き回るであろう、屋台出店の数が多いこと。テント1枚で、焼きそば、わたがし、リンゴアメ、串焼きなどきりがいい程何百店と店が並び神社の境内・参道をうめつくしていた。ここ片貝の花火大会に全国から集まって来たと思われる店数は200～300店もあったようだ。昔、「寅さん」の映画でも、この片貝の花火を見たことがあった。



※地元浅原神社の大鳥居。この両側に屋台の出店がずらりと並び大賑わいであった。

新潟県小千谷市片貝町で毎年9月9日～10日に開催される片貝まつり。世界でも最大級の四尺玉花火が打ち上げられる花火大会である。

越後三大花火大会と言われる、海の柏崎花火、川の長岡花火、そしてこの山の片貝花火である。

この片貝まつりの花火は、歴史のある奉納花火で、この花火大会の正式名称は、「浅原神社秋季例大祭奉納大煙火^{あきはらじんじゅうしゅうまいるたいさいほう}」という長い名前であった。

名前が示すとおり、片貝地元の「浅原神社」へ奉納



※参道に続く道の両側に並ぶ出店。

する花火まつりなのだ。以前、秩父の手作りロケット花火を打上げる「龍勢祭^{りゅうせいまつり}」を記したことがあるが、神社への奉納で何百年も続く伝統的な村の例祭行事では同じようなまつりである。

ここの花火の歴史も古く、江戸時代に浅原神社にお賽銭を入れる代わりに花火を奉納して願いを祈ったのが始まりといわれ、1891年(明治24年)に片貝町で日本で三尺玉花火が初めて打ち上げられ、三尺玉誕生の地、発祥の地として有名になったといわれる。

その後も世界最大の四尺玉花火、尺玉入りスターメイン花火など大型の仕掛け花火が満載で現在では2日間で15,000発ほど打ち上げられると言うからすごいと思う。

花火は大半が、スポンサー付で、地元の企業の協賛が多いというが、地元の片貝町、新潟県内、関東や関西など、聞いていると全国の各地からも奉納があった。

花火を打上げる前に女性の名物アナウンサーが、どこの誰かさんがどんな為に打上げますと説明が流されて打上げるために長時間を要するが、これがまた大変楽しく奉納者も満足のようなようである。打上げ始めはのんびり感があったが、時間が過ぎるにつれて、早くもなり件数も増えて、大型化し十分楽しめた。



※四尺玉の内容が書いてある。重量420kg、800mに広がる大輪の花火の説明。



※120cmある四尺玉の花火の大きさ。子供のたけ程ある。



※奉納者の名前がずらりと書かれている。2日間で15,000発。



※近くで見るとよくわかる。ほとんどが、奉納者の寄付。



※三尺玉の破裂したところ。600m上がり600mの広さになる。



※四尺玉の破裂したところだが、撮影の距離が違うが、音の大きさが随分違った。



※四尺玉の流れ始めるところ。800m上がり800m破裂したところ。



※四尺玉が流れ始めたところ。とにかく見ないとわからない。

この浅原神社のまつりと「世界一の四尺玉」について、パンフの説明をそのまま記してみた。

歴史の重み…

直径800m『世界一の四尺玉』

浅原神社の秋季例大祭であり、祭りの特徴は浅原神社への奉納煙火です。

片貝の街中では、朝から浅原神社へ花火の玉を奉納する「玉送り」や、花火打ち上げの成功と無事を祈る「筒引き」などの古式ゆかしい伝統行事の数々が執り行われます。

片貝は、日本最初に「正三尺玉」や「正四尺玉」を打ち上げたことで有名であり、「三尺玉発祥の地」として知られています。

今もなお、日本で唯一の「真昼の正三尺玉」が打ち上げられ、大尺玉が打ち上げられることで各方面に知られている花火大会です。

昭和60年には「四尺玉」の打ち上げにも成功しました。

四尺玉は重さ420kg、その四尺玉を地上800mまで打ち上げると、直径800mもの大輪の花を夜空に咲かせます。

「三尺玉発祥の地」として400年に及ぶ歴史があり、神社に花火を奉納するという奥ゆかしい伝統の中で常に日本一の誇りを持って奉納される「片貝の花火」を是非ご堪能下さい。

この四尺玉についてももう少し説明を加えると、上げる筒がある。この筒長5m・重量が3.5t、四尺玉の直径120cmもある。現物も展示しているが大きいものだ。制作費用なんと250万円だそうである。三尺玉180万円と聞いたが、高いか安いかわからない。このような多額の金の玉を数秒、一瞬で消える幻に一喜一哀を感じる。東京での大きな花火大会にはほとんど出かけ、地方にも年に何回か見に出かける。自分でも良く理解出来ないが、人生の縮図かも知れないと思いながら、毎年花火を追っかけている。

今回大変お世話になった知人や関係先の方々に厚く感謝して、片貝花火大煙火祭を脳裏に焼き付けて終えたい。

平成 29年 10月 8日記



片貝まつりの花火打上用の煙火筒のモニュメント
出典：<https://ja.wikipedia.org/wiki/>